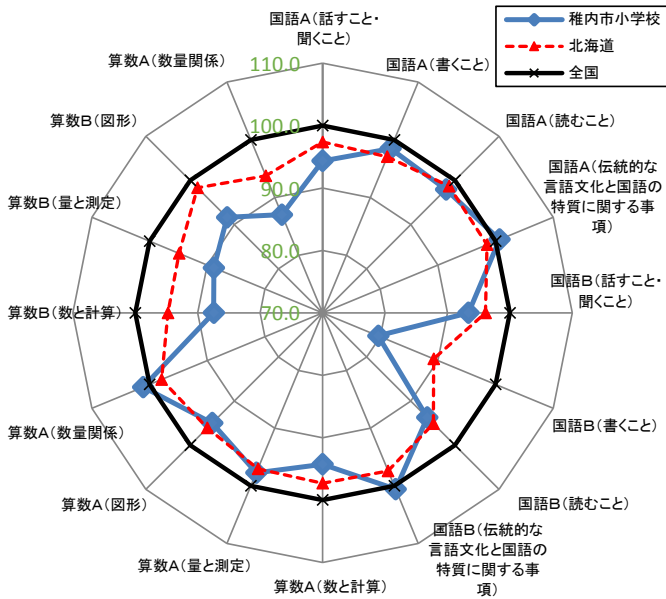


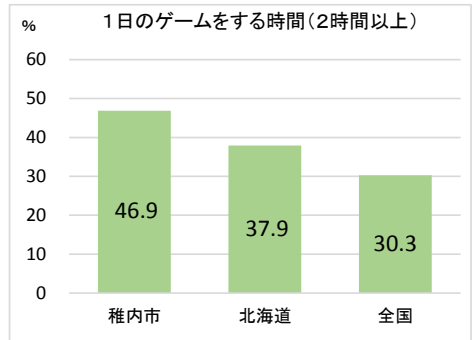
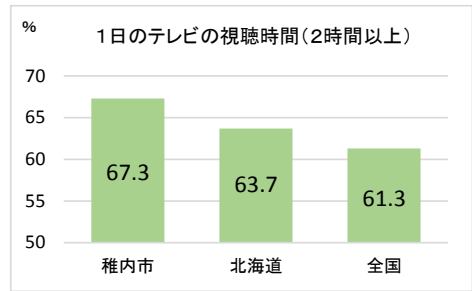
稚内市内小学校の状況及び学力向上策(学校数:10校、児童数322名)

【教科全体の状況】

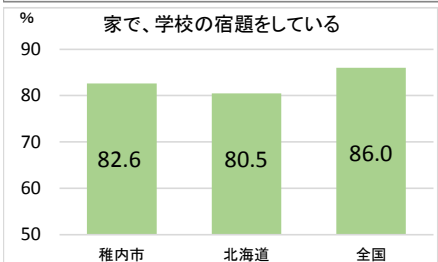
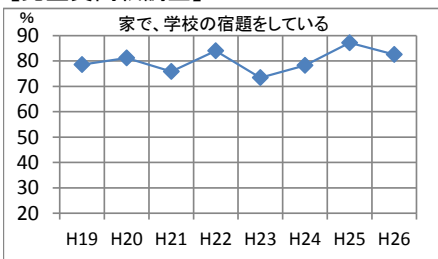
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したものを(市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)



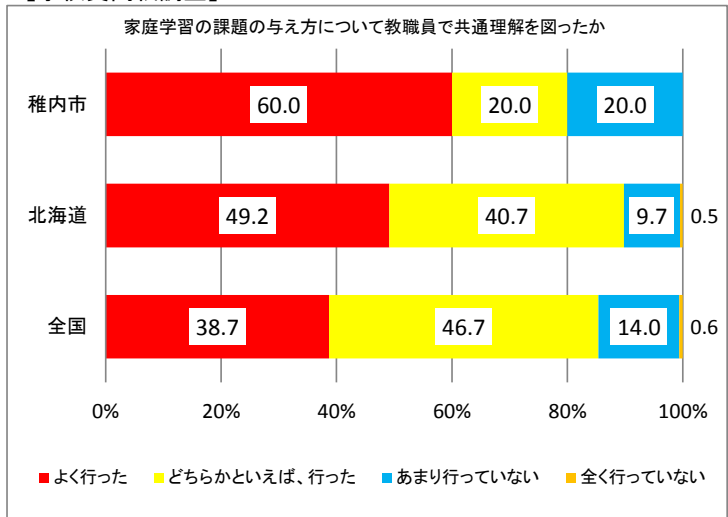
【児童質問紙調査】



【児童質問紙調査】



【学校質問紙調査】



【分析】

教科	○ 国語Aと国語Bの「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」、算数Aの「数量関係」が全国を上回っており、各教科ともに全国との差が縮まっている。	○ 家庭学習の与え方についての教職員間の共通理解を図り、宿題の取組を工夫した結果、家で宿題をしている児童が、全国には及ばないものの北海道を上回っている。そのため、基礎学力の定着が進んでおり、国語、算数ともA問題において全国に近付いている。
児童質問紙	○ 「家で学校の宿題をしている」児童は、北海道を上回っているが、まだ全国には及ばない。 ○ 「1日のテレビの視聴時間」や「ゲームをする時間」は北海道より長くなっている。	
学校質問紙	○ 家庭学習の課題の与え方について、教職員で共通理解を図っている学校が多い。	

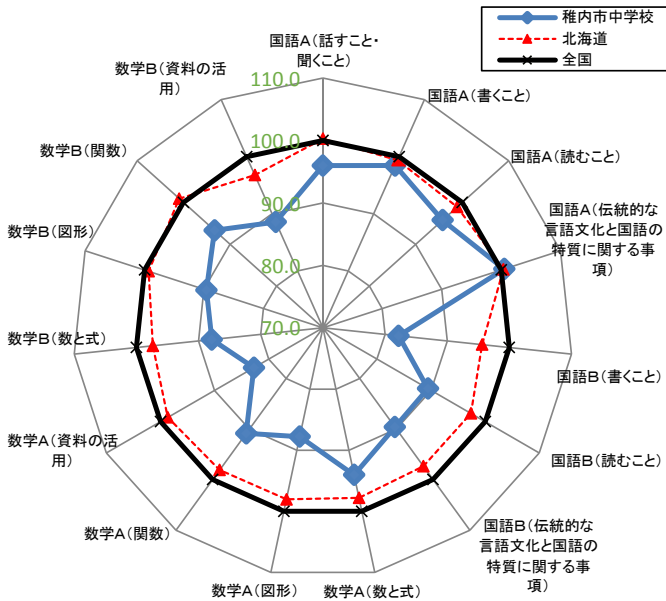
【稚内市の学力向上策】

- ◎ 第3、4学年を対象とした学校教育指導員(退職教員等)による放課後学カゲン塾の実施
- ◎ 第1、2学年を対象とした市費負担教員の配置による少人数学級の実施
- ◎ 学びの連続性を確保するための小中連携や一貫教育の推進

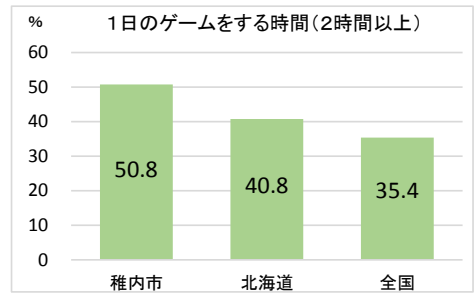
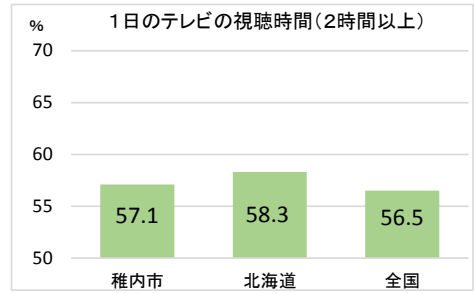
■ 稚内市内中学校の状況及び学力向上策(学校数:7校、生徒数284名)

【教科全体の状況】

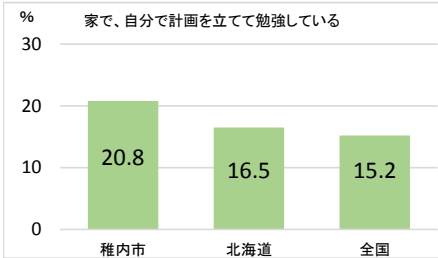
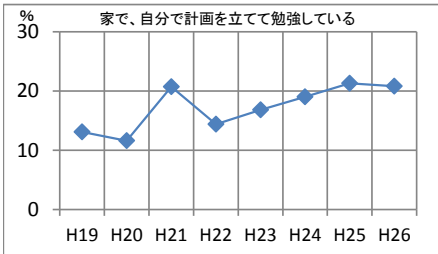
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
(市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)



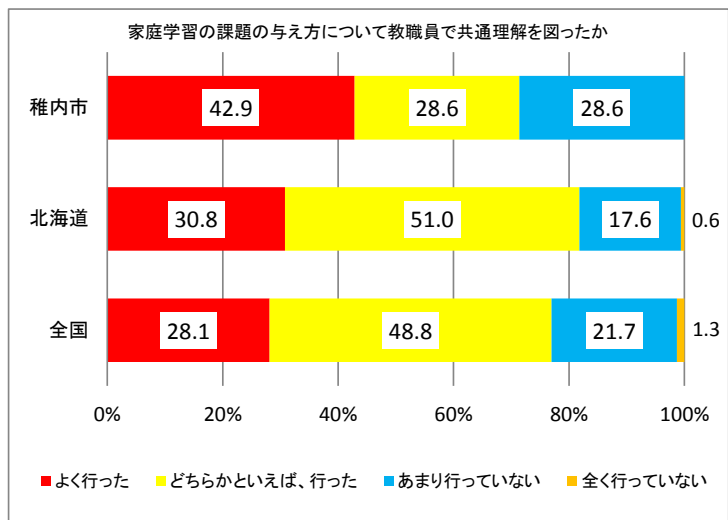
【生徒質問紙調査】



【生徒質問紙調査】



【学校質問紙調査】



【分析】

教科	○ 国語Aの「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」が全国を上回っており、各教科ともに全国との差が縮まっている。	○ 家庭学習の与え方についての教職員間の共通理解に向けた取組を「よく行った」学校の割合が全道、全国より高く、こうした取組の結果、家で計画的に勉強をしている生徒は、全国や北海道と比べて高い。
生徒質問紙	○ 「家で自分で計画を立てて勉強している」生徒は、北海道や全国を上回っている。 ○ 「1日のテレビの視聴時間」は全国より長く、「ゲームをする時間」は北海道より長くなっている。	
学校質問紙	○ 家庭学習の課題の与え方について、教職員で共通理解を図っている学校が多い。	

【稚内市の学力向上策】

- ◎ 学生ボランティアによる放課後学習の支援
- ◎ 「夢広がる学校づくり推進事業」による学校独自のテキスト(問題集)の作成などの取組
- ◎ 学びの連続性を確保するための小中連携や一貫教育の推進